

中国におけるチベット学の現状

ドルジ・ツェテン
(中国チベット学センター総幹事)

石 濱 裕美子 訳

議長先生並びに先生方、貴国のチベット学会のこのたびの盛會に御招き頂いたこと、並びに大會上で發言の場を頂きましたことを心から感謝致します。私は一人のチベット学者として、長年にわたり貴国の学界の中のチベット学の研究分野の進展についてずっと強い関心をもっており、諸先生方の培われた豊富な研究成果には大変感服しておりました。この機会をお借りして私は中国の同僚達を代表して諸兄位に敬意と祝意を表明したいと思います。

周知のごとくチベット民族は中華民族という大家庭の中の重要な一員です。勤勉にして実直、勇敢にして知性溢れるチベット民族は古来豊かつ多彩な独特の文化を創造してまいりました。それは中国の民族文化の宝庫の中でも絢爛たる光を放つ明珠のようなもので、世界の文化の林の中に咲く目を奪うばかりの珍花とも言えます。チベットの文化は時をおうにつれて内外の学者の関心をひきつけており、今や、チベット学は国家や民族の壁を越えた国際性を有する学問に発展しています。

チベット学の故郷は中国にあります。チベット学に関する中国の学界は古い歴史と伝統を有していますが、時間の制限もありますのでここでは全てをお話することはできません。一般的に、中国におけるチベット学の発展は明確な段階性を有しています。現段階でのチベット学の研究対象は、チベットを主とする四川、滇、甘州、青海等々の省のチベット人居住区域全域であり、前進・発展・進化する歴史の過程における全ての文化現象——歴史、言語、文学、政治経済、哲学宗教、音楽演劇、建築彫塑、絵画工芸、医薬暦学、風土民族及び現代化に向けて進む過程において遭遇する各種の理論的・実践的問題等——を研究することにあります。このため、我々はこれらの総合的性格を有する学問群をひっくるめて今日言うところの中国におけるチベット学と考えております。

今世紀の五十年代から六十年代の初めより、新中国の

科学者はチベットの社会、政治、経済、歴史、言語、文化等諸方面において大規模な調査を行ってまいりました。それと同時にチベット人居住地区にある考古学的遺物や遺跡、文献資料、民間の文化遺産の収集、整理、保護事業は漸次進展してまいりました。この期間、科学者は歴史学、社会学、民族学、言語学、考古学、古人類学等の諸領域の研究において等しく斬新な業績をあげてまいりました。しかし、不幸なことに文化大革命という十年続いた動乱の影響により、産声を上げたばかりの新中国のチベット学は停滞に陥りました。しかし十年動乱の収束以後、特に1978年以来、チベット学は枯木が春に逢うがごとくに盛んになり、全面的に発展を見ることとなりました。この十余年の間、チベット学の成果は累々とあがり人材は輩出し空前の活況を呈しました。私はこの機会を借りて皆様にここ数十年の中国におけるチベット学の学科としての成立とチベット学の分野における進展の様相について概略を紹介させて頂きたいと思います。御手元の資料は完全なものではなく、ここで紹介申し上げることも大略ですので、疎漏な点や不正確な箇所があることと存じますが、ご容赦ください。

—

中国は発展途上国であり、経済力はいまだ薄弱です。しかし、我が政府はこの財力、物量ともに限りある状況のもとで、チベット学には多大な支持を行ってまいりました。それはチベット学の各方面における多大な発展を可能としてきました。

チベット学の組織化についてお話しすると、五十年代、六十年代に設立された中国社会科学院民族研究所、世界宗教研究所等の部門を除くと、ここ十数年来北京、西藏、四川、青海、滇等の省区にも相継いでチベット学専門の研究所が設立されました。北京のチベット学研究センター、中国チベット語系高級仏敎学院、中央民族学院チ

ベツト学研究所、中国社会科学院少数民族文学研究所に所属する全国『格薩爾王伝』関連事業を指導するサークル、西藏自治区社会科学院、西藏自治区経済社会發展センター、西藏大学、西藏民族学院民族研究所、西藏自治区教育科学委员会民族教育研究所、西藏自治区文化庁芸術研究所、西藏自治区蔵医院蔵医研究所及び天文曆算研究所、青海省社会科学院チベツト学研究所、民族宗教研究所、青海民族学院民族研究所、青海省『格薩爾』史詩研究所、四川省社会科学院チベツト学研究室、四川省チベツト学研究所、四川省外国語学院国外蔵学研究センター、四川省チベツト学文化書院、西南民族学院チベツト学研究室、甘肅省チベツト学研究所、西北民族学院西北民族研究所等であります。推計すると、現在に到るまで全国には既に専門的ないし主にチベツト学研究に取り組む組織は50箇所あまり存在しています。これらの組織はそれぞれの特徴や得意の分野に基づいて、異なる側面ないし角度からチベツト学の単科ないし総合の研究を展開しています。チベツト学のネットワークは全国的規模で多層的かつ全方位的で形をなしつつあります。

次に、中国チベツト学研究センターを紹介したいと思います。中国チベツト学研究センターは1986年に北京に設立された国立の研究所です。このセンターには歴史宗教研究所（下部組織：宗教、歴史、因明等の研究室）、社会文化研究所（下部組織：社会経済發展戰略、文化人類学、言語等の研究室）、文献資料研究所（下部組織：図書館、歴史檔案、視聴覚室）、中国蔵学出版社（下部組織：蔵漢文雑誌、図書、英文等の編集室）があります。現在センターには80名のチベツト民族、漢民族の研究人員がいます。センターの主要な任務はチベツト学を全国的規模で組織・協調させることにあります。例えば、全国の組織と共同して中長期のチベツト学研究的計画を制定し、単独であるいは他の研究機関と共同して、大型の研究を完成させること、また、チベツト民族の優秀な伝統文化を継承かつ高揚させるために、チベツト文の古書籍を収集し、整理、出版すること、また、チベツト学の優秀な業績を出版し、チベツト学の人材を養成し、国内外の学術交流を行うこと等が挙げられます。現在、主要な研究の課題には、1. チベツト文の『中華大蔵經』（丹珠爾）の編集校訂出版作業、2. 国内に現存するサンスクリットの貝葉經典の整理研究、3. 元朝以来のチベツトと中央政府との関係の研究、4. チベツトの封建農奴制時代の社会形態の研究、5. チベツト文の歴史大辭典の編纂、6. チベツト人居住区域における社会経済の發展のための戰略の研究等があります。センターの下には中国蔵学出版社があり、既に『五明精選叢書』（チベツ

ト語版、11部14冊が出版済）『西藏知識小叢書』（9冊が出版済）『中国蔵学』（季刊、チベツト語版、中文版）等の叢書が出版されています。1988年より国内外に向けて『中国蔵学』（krung go'i bod kyi shes rig）『西藏研究』（bod ljongs zhib 'jug）『中国西藏』（krung go'i bod ljongs）等のチベツト学の専門誌や『青海社会科学』『西北民族研究』『甘肅民族研究』『青海民族研究』『民俗』『民族』『民族研究』『章恰爾』（sprang char）『西藏仏教』『西藏教育』『西藏文芸』『雪域文化』『邦錦花』（spang rgyan me tog）『珠穆拉瑪峰』（jo mo glang ma）『山南文芸』（lho kha'i rtsom rig sgyu rtsal）等の二十種あまりの刊行物が創刊されました。また各地の民族学院の学報にも経常的にチベツト学関係の論文が掲載されており、その他の『歴史研究』『世界宗教研究』『歴史檔案』『清史研究』『歴史知識』『文物与考古』『法音』『地名叢刊』等の刊行物にも時折チベツト学関係の論文が発表されています。

ここ十年来、チベツト学関連の書籍の出版事業は空前の盛況を呈しており、北京、チベツト、青海、四川、甘肅、雲南等の省、市、区の出版社では多種類のチベツト文、中文の文献資料や専門書や一般書が出版されています。今年九月末の統計によりますと、現在に到るまで全国で発行されたチベツト文の図書、出版物の点数は既に一万点に、発行部数は一億冊に達しており、これは新中国における少数民族言語の出版物としては最多の刊行数となっています。これらの刊行物の大多数はここ十数年来に出版されたものです。

チベツト学の研究集団は迅速に發展しており、これは最近の十数年来にわが国のチベツト学が辿った繁榮の一つの目盛であります。前時代の多数のチベツト学者は今なお現役で活躍していますし、新中国が成立した後に養成されたチベツト学者は既に中堅の力量を備えつつあります。1978年から1989年に到るまでの十年間に全国で養成された70名のチベツト学の研究生（半数はチベツト民族）は前世代の学者の指導の元に急速に成長しており、彼等のうちの多くの者は既に注目に値する研究業績を発表しています。現在チベツトの研究、教育、出版に従事する人員は推計二千人余りおり、その中でもエスタブリッシュメントの研究員は200人余りいます。これらの全ての研究集団は十数年前に比べると顕著に数が増加していますし、質も向上してきています。

ここ十数年来国内の各チベツト研究機関の間で学術交流が非常に盛んになり、地方規模或は全国規模の学術会議が開催され、それぞれ一つのテーマを、分担して或は共同して研究を行ってきました。これと同時に近年の改

革、解放路線の指導の下に、中国におけるチベット学の学者（香港、台湾、あるいは国外に居住するチベット、漢族の学者も含む）が国外での同行の志との間で行う交流も一層盛んになってきています。多くの国の学者が中国を訪れて学術交流を押し進め、学術会議に参加し共同研究を議論しています。また数人の外国の研修生や留学生が中国を訪問して研究を行っております。我が国でもまた数人の学者が国際学会に参加し学術的考察を深め、相互の国を訪問し共同研究を展開しています。本年の初秋には中国チベット学学術討論会と『格薩爾』史詩学術討論会が北京とラサでそれぞれ開催されました。招待に応じて会に参加した外国の学者はあわせて数十名に及びました。会議は国内外の学者の間の友好と理解を押し進め、今後のさらなる交流と共同研究のために素晴らしい基礎を築きました。

中国のチベット学界と日本のチベット学界との交流も近年大きな発展を見えています。研究業績の交流から研究人員の相互訪問は全面的に発展と拡大の様相を呈しており、研究機関間の共同研究も始まりつつあります。我々はチベット学の繁栄のためにも、中日のチベット学界の友好的協力関係が今後更に発展していくことを熱烈に希望しています。

二

ここ十数年来中国におけるチベット研究は多くの分野において多大な進展をしてきました。以下に要点をかいつまんで述べたいと思います。

1. 考古学的遺物の調査と発掘

関連する部門は、チベット人居住地域に既に存在する考古学的遺物や古跡の保護と研究に従事しつつ、沢山の新しい遺跡、例えば、ロカ (lho kha)、ナクチュ (nag chu)、ラサ (lha sa) 等の地において多くの古墓群を、チャムド (cha mdo) のカルブ (kha rub) 等の地においては多くの摩崖石刻等を次々と発見しています。特にチャムドの近郊にある新石器時代の遺跡は、その豊富な歴史的遺物と明瞭な文化的特性によって国の内外で注目を集めています。各種の考古学的遺物や遺跡の新発見はチベット研究の多くの分野に新たな展開を誘起しています。また、チベットには大量の貝葉経典が残っており、これを収集して整理研究する事業も積極的に行われております。

2. 各種の古資料の整理出版

チベットを研究する学者に便宜をはかるために、各地

において各種のチベット文の文献や古資料の出版が重要視されています。推計によりますと、八十年代には全国で出版されたチベット文の古籍は200種類以上に及び、内容も歴史、宗教、言語、文学、天文、暦算、医薬、絵画、建築、芸術等のそれぞれの領域に及んでいます。

『第誤宗教源流』(lde'u chos 'byung) 『朗氏宗譜』(rlangs kyi po ti bse ru rgyas pa) 『智者喜宴』(mkhas pa'i dga' ston) 『漢藏史集』(gya bod yig tshang) 『巴協』(sba bzhed) 『紅史』(deb ther dmar po) 『青史』(deb ther sngon po) 『新紅史』(deb ther dmar po gsar ma) 『西藏王統記』(rgyal rabs gsal ba'i me long) 『西藏王臣伝』(dpyid kyi rgyal mo'i glu dbyangs) 『世界総論』(dzam gling rgyas bshad) 『拉達克史』(la dvags rgyal rabs) 『布敦教法史』(bu ston chos 'byung) 『漢地仏教史』(rgya nag chos 'byung) 『安多政教史』(mdo smad chos 'byung) 『雅隆史』(yar klung jo bo'i chos 'byung) 『薩迦世系史』(sa skya'i gdung rabs) 等のチベット文の基礎的な歴史書の名著が既に出版されています。哲学宗教の分野においては『因明学彙集』(tshad ma kun bsdus) 『因明学概要及其注釈』(tshad ma'i dgongs don rtsa 'grel mkhas pa'i mgul rgyan) 『因明七論叙略』(tshad ma sde bdun gyi rgyan yid kyi mun sel) 『古印度因明学選編』(tshad ma rig pa'i rgya gzhung dpe tshogs) 『時量論註』(?) 『量理論宝蔵総則及其注釈』(tshad ma rigs gter gyi rtsa 'grel) 『菩提道次第広論』(byang chub lam rim chen mo) 『法要導読・普賢上師言教』(snying thig sngon 'gro'i khrid yig kun bzang bla ma'i zhal lung) 『解脱』(thar mdo) 『西藏苯教源流』(bon gyi bstan pa'i 'byung khungs), 科学技術や医薬の関連では『暦算論典』(skar rtsis kun 'dus) 『漢地暦算精要』(rgya rtsis snying bsdus) 『四部医典』(rgyud bzhi) 『四部医典系列挂図全集』(rgyud bzhi'i sman thang phyogs bsgrigs) 『蘭疏璃』(baiD'urya sngon po) 『月王藥診』(sman dpyad zla ba'i rgyal po) があり、また、各種の人物伝、古典小説、チベット劇の台本、格言及び詩歌、文学理論、音楽理論、文法修辭等に関連する代表的なチベット文の古籍は陸續と上梓されています。これらの書籍の多くには既に漢訳本も出ています。

地方においてもやはり各種のチベット文の公文書の選集が出版されており、その一部には、『西藏歴史公文檔案選』(bod kyi lo rgyus gzhung yig bdam sgrig) 『西藏歴代法規選』(zhal lce phyogs bsgrigs) 『中国西藏地方歴史資料選輯』(krung go'i bod sa gnas kyi lo rgyus dpyad yig bdam sgrig) 及び『西藏災異史』(rang

byung gnod 'tshé'i yig tshags phyogs bsgrigs)『西藏地震史料』(sa g-yos skor gyi lo rgyus dpyad yig)『鉄虎清冊』(lcags stag zhib gzhang)等があります。

八十年代にはチベット研究に関連する漢文の文献史料の出版が非常に多く行われました。主要なものは『藏族史料集』『通鑑吐蕃史料』『明實録藏族史料』『清實録藏族史料』『清代藏事輯要』『民元藏事電稿』『九世班禪円寂致祭和十世班禪轉生座床檔案選編』『十三世達賴円寂致祭和十四世達賴轉生座床檔案選編』及び各種の奏議、方志、旅行記、日記等です。

五十年代より七十年代に到るまでに、関係する機関や組織の多くの専門家がチベットに赴いて社会調査を行いました。その報告書は100万字に達しておりまして、チベット社会の経済、歴史、文化等の分野の内容を包括しています。1983年よりこれらの報告書の整理編集が行われ『西藏社会歴史調査資料叢刊』という書名のもと十冊にわけて出版することになりました。現在のところは既に五巻が出版されております。

この他にも各出版社が美しい装丁の解説付き写真集を数多く出版しています。その一例は『藏伝仏教芸術』(bod rgyud nang bstan sgyu rtsal)『西藏唐卡』(bod kyi thang kha)『八思巴画伝』('gro mgon 'phags pa'i mdzad thang)『布達拉宮』(po brang po t'a la)『薩迦寺』(sa skya dgon pa)『昌都卡若』(cha mdo'i kha rub)等です。

国外のチベット研究の状況を知るために、いくつかの外国のチベット研究者の代表的著作を国内向けに中国語訳して出版する事業も行われています。

3. チベットにおける民間の文学や芸術の収集と整理

チベットの優秀な伝統文化を継承、高揚するために、関連する部門は民間に流布する音楽、舞踏、チベット劇、曲芸、民歌、民謡、英雄叙事詩、神話、伝説、故事、格言、譬え話、笑い話等を広範囲に収集、整理する事業を行っています。その中でも代表的なものは長編の英雄叙事詩『格薩爾王伝』の収集整理研究事業です。これらの課題は「六五」「七五」計画における国家の重点項目に挙げられています。現在収集が終った『格薩爾王伝』は180あまりの点数があり、『格薩爾』を吟ずる民間の詩人は40名、『格薩爾』伝説の遺跡の多くが発見されており、木刻本、手写本は40種、100版、異本を除くと80部余りが発見されています。現在整理が済んで目録がでたものは首部7部、18大宗、149小宗で、併せて174部を数えるものとなっています。民間の詩人の演じた『格薩爾』の70曲が、3000本のテープにとられており、660本は既に

文章に起こされています。そのうち18大宗は既に全て録音並びに整理が完遂しています。現在、整理出版されたものは16部(17部)あり、漢訳本を5部出版しています。

4. 研究成果

ここ十数年来、中国におけるチベット研究はその得意とするところに従って研究に専心し、業績は累々とあがっております。これを証明するために、以下に一連の数字を上げてみましょう。推計によりますと、1906年から1990年に到るまで、国内の刊行物(報告書は含まない)上に発表されたチベットに関係する文章(訳文は含まない)はおよそ6000篇で、その内1906年から1949年に到るまでは1600余篇、1949年から1979年に到るまでは750篇、1979年から1990年に到るまでは3600篇に達しています。1979年以来論文の数量は急激に増加しましたが、カバーする領域も絶えず拡大しておりまして、歴史、チベット語、宗教、政治、経済、人文地理、対外関係等の分野以外にも、文学芸術、考古学、天文暦算、チベット医学、建築芸術等の領域にも及んでいます。

論文や文章以外にもここ十数年来、さらに高水準の学術書や参考書が世に出ています。『論西藏政教合一制度』『西藏通史』『西藏仏教発展史略』『藏族簡史』『達賴喇嘛伝』『班禪額爾德尼伝』『中国藏族部落』『西藏仏教』『角羅：宋代藏族政権』『藏曆の原理と実践』『西藏地方貨幣史』『藏漢大辞典』『漢藏語言概論』『藏漢対照拉薩口語辞典』『拉薩口語読本』『西藏壁画』『詩鏡明鑑』『藏医歴史人物伝記』『四部医典形象概論』『秘訣本統形象論記』『藏族史和歴史年表』等は皆、作者の多年にわたる心血が注ぎこまれた力作です。

チベット民族の歴史は悠久であり、文化は多様で、研究を必要とする問題は非常に沢山あります。大型の通史の編纂や各種の専門史、テーマをたてた選述書は無論のこと、海のごとくに浩瀚な古資料や公文書の迅速な収集と整理は一刻の猶予も許されない問題です。その事業の広大さと仕事の繁雑さは決して小人数のものが短期間で遂行することは不可能なものであり、国内外の学者が緊密に共同研究を行い、多くの知恵や力を集めて世代を越えた人間が不断の努力を継続することによって始めて見るべき効果があがり、チベット学の水準をして新しい水準に高めることができるものなのです。ここ数十年來、中国におけるチベット研究は先人の基礎の上に多大の発展をし、少なからぬ業績を上げてまいりました。しかし今なお多くの問題やテーマが存在しています。また、我々の業績はいまだ現象的な祖述に留まるのみとなっており、内面にまで踏み込んだ分析が欠けています。ある

分野、例えばチベット民族の優秀な伝統文化の結晶——客観的法則の思想の歴史——のようなものの研究はまだ十分ではなく、ほとんど端緒についたばかりといった具合でありますし、我々の研究集団は論理的思考の素養や研究方法や研究能力等の方面でも、まだ様々な不足不備等が存在しています。このために我々はいささかも既存の業績に満足しておりません。これらの問題を正視し困

難な点を克服し海外の同学の学者や専門家との親密な共同研究がチベット研究の繁栄と隆盛のためには必要なものと思っています。

最後に大会の成功にお祝いを申し上げたいと存じます。吉祥あらんことを。御清聴ありがとうございました。

1991年10月24日